

# 龍 灯

第 7 号  
発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所  
霊 亀 山 九 島 禅 院  
〒550 大阪市西区本町3丁目4-18  
☎06-583-2725  
発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

## 散骨が認められる

### 墓地は必要ないのか？

市民グループ「葬送の自由をすすめる会」は「散骨」による葬儀を行いました。テレビのニュースでも報道されたので、ご存知の方も多いことでしょう。これまで「散骨」は「墓地、埋葬等に関する法律」（通称「墓地法」）によって許可を受けた土地以外のごくには勝手にお墓を建てることは許されておらず、焼骨を海や山にばらまかず、勝手に処分してはならないとされてきました。

海山へ散骨は、爆弾テロに倒れたインドのラジブ・ガンジ氏の遺骨が、ソニア夫人などの手でガンジス川に流されたり、中国の周恩来首相が揚子江に、同じく胡耀邦首相は大陸の森林に、フランスの俳優ジャン・ギャバンはブルターニュ半島沖にライシャワー元駐日大使は太平洋に葬られたことが知られています。日本では、故市川房枝さんにも著書の中で「死んだら骨は海にでも流してくれればよいと思っ

ていたが、日本では許されないのをお墓を買った」という意味のことを書いておられます。作家の永井荷風も「焼いた骨は拾うな、墓もつくるな」と日記に遺言を書き残しましたが、遺族に無視され雑司が谷霊園に大きな墓が作られしまいました。十月十六日付朝日新聞の記事によると、同会が実施した

「自然葬」という散骨について法務省は「節度をもって葬送の一つとして行われるかぎり違法ではない」と初めて公式見解を示しました。また、厚生省も最近「墓地法は散骨のような葬送の方法については想定しておらず、法の対象外で禁じているわけではない（生活衛生局企画課）」との立場を表明している。この立場を表明している。これらで、一応「葬送の自由」が認められたわけですが、それでは、お墓は必要ないのでしょ



おいて、お釈迦さまのご遺骨は仏舍利としてストウパー（仏舍利塔）が建てられました。一般の人はお墓を建てませんが、遺体はガンジス川で茶毘に付し、その骨灰を川に流してしまします。ですからお墓というものはありません。日本のお墓というものは、古来からの民俗信仰、即ち死者の霊が生きている者にタタリをすると考え、タタリをしないうように死者の霊を祀って鎮めることを目的に作られました。のちに仏教の影響を受けて、お墓は子孫を護ってくれる祖霊を祀る敬愛の場所となったのです。人間は、すべて自分の意志によって動いていると思っても、見えないものの力によって大きく動かされています。その第一が自分の出生です。両親があり祖先があってこそ現在の自分があるということ。まずその





# 本堂修復工事完了のご報告

九島禪院住職

奥田 啓知

ことに對して感謝の気持ちを持つことが、人間としてもっとも大事なことだと思えます。お墓を建てて祀るといふことは、その大事な両親や祖先の霊と対面し、自分の今あることへの感謝の気持ちを表すことにほかなりません。お墓は生者と祖先の霊をつなぐ接点なのです。ですから祖先の霊がそこにあると信じなければ、お墓を建ててもあまり意味がありません。単なる遺骨の収蔵庫になってしまいます。死が誰にとっても避けられないものであるならお墓は、とかく薄れがちな親子の絆を取り戻し、現代人の心と心のふれあいを確かめる場として、大きな役割を持っているのではないのでしょうか。

懸案の本堂屋根瓦葺き替え及び改修工事は、十月二日に着工し、中山工務店の施工にて十一月十日に完成をみました。今秋は例年になく雨が多く、晴れ間を選んでの工事でしたが、台風襲来の前にとん

とん板を葺き終わっており、大過なく完成したことを喜んでいきます。

同時に本堂の正面の柱・建具・階段・廊下の新調工事も行いました。入口の扉の建具は旧のものより大きくし、鴨

## 年忌について

来年分の年忌表をかかげます。一周忌とか三回忌の仏さまは亡くなって間がないので、皆さまの方がよくご存知のことと思いますが、古い仏さまの場合、今年あたり多分、年忌にあたるのではとのお問い合わせがあります。

当院の住職が葬儀を執行致しました場合はすべて当院の過去帳に記入しており、年末に調査してお知らせ致しますが、他寺に於いて執行されたものに関しては、未だ全部把握できておりません。

小生も参詣致しました折、気をつけておりますが、左表によりご注意下さい。当院も百年以後の過去帳のみ戦災で焼失を免れましたが、水禍のため一部不鮮明のところがあります。なお、二十三回忌・二十七回忌三十七回忌・四十三回忌・四十七回忌などは、禅宗や当地域にては執行致しません。ご了承下さい。

年忌法要は1カ月以上前位に、当院まで、日取りと場所等のご連絡を頂きますれば幸甚です。

年忌表 (平成4年)

回 忌	死 亡 年
1 周 忌	平成 3 年
3 回 忌	平成 2 年
7 回 忌	昭和 6 1 年
1 3 回 忌	昭和 5 5 年
1 7 回 忌	昭和 5 1 年
2 5 回 忌	昭和 4 3 年
3 3 回 忌	昭和 3 5 年
5 0 回 忌	昭和 1 8 年

居敷居それに階段をすべて檜材で一新しました。

廊下の床板をめぐったところ、昭和二十六年という戦後間もない時期で資材難のためか、東下のコンクリートの基礎がセメント不足で砂利が乖

離しぼろぼろと剥がれ落ちる状態で補強工事が必要となりました。当然、本堂のすべての床下の基礎工事と同様で、全面に防湿モルタルを塗り、東下コンクリートブロックを四十五カ所にわたって据え付





本堂屋根瓦葺き替え工事  
正面内部も同時に大改修工事

修復工事へは、  
 一個人で壱千万  
 円もの予期せぬ  
 ご喜捨もあり、  
 その他二百九十  
 一名の一般参詣  
 者や檀信徒の皆  
 様方から、総額  
 一千三百万円余  
 もの尊い浄財の  
 ご志納金を頂き  
 ました。本堂に  
 ご芳名を記すと  
 ともに有無兩縁  
 の方々のご支援  
 に対し、心より  
 厚くお礼申し上

け、檜材に床下を取り替えて  
 畳下の床材もコンパネ材で補  
 強しました。  
 法要中、本堂の床が抜ける  
 事故があった寺もあったと聞  
 きます。盆・彼岸の法要など  
 大勢の参拝者のお座りの床下  
 が、よくもったものだと思  
 なで下ろしました。  
 また、電気の配線も漏電の  
 危険のある旧のもので、碍子  
 に布の絶縁のものをすべて撤  
 去、新規に配線工事をし、床

照らし等照明を増設し、本尊  
 の内陣も随分明るくなりまし  
 た。  
 先の戦災で堂宇悉く消失と  
 いう困難の中、檀信徒の皆様  
 方のご協力のおかげで建設さ  
 れた現本堂も、戦後の物不足  
 の時代でもあり、四十六年た  
 ち、大変傷んでおりましたが  
 これで、ようやく面目を一新  
 ここ二、三十年は安泰である  
 うと存じます。  
 今回の本堂屋根工事並びに

ご 案 内

●宗祖隠元禅師御生誕四百年慶讃大法要

下記の要項で表記の大法要が行われます。  
 期間中、バスを仕立てた団体参拝を計画して  
 います。詳細は後日お知らせの上、募集いた  
 します。また、授戒（修行のうえ戒名を授け  
 る）も同時に行われます。この機会に是非お  
 授戒されることをお勧め致します。

記

日 時 平成4年11月4日（水）  
 ～8日（日）〔5日間〕  
 場 所 大本山黄檗山萬福寺

※奉納協賛イベント・授戒は1日戒・半日戒  
 代戒・亡者戒が予定されています。

げます。総工費不足分六十五  
 万円は九島禅院寺院会計より  
 計上致しました。ここに本紙  
 上をもって慎んでご報告を申  
 上げ厚くお礼申し上げます  
 なお、既報のごとく現在、  
 総代会において、客殿（檀信  
 徒会館）の再建復興計画をま  
 とめております。来春早々に  
 は、詳細を記載した建設趣意  
 書の配付ができる予定です。  
 ご存知のように、当院は九  
 条島開発とともに創建され、  
 三百二十年に亘る法燈を厳護

しており、菊花御紋章使用の  
 公許された当地の名刹です。  
 また、その由緒から黄檗宗で  
 も別格地という寺格に指定さ  
 れています。戦前のような、  
 寺格にふさわしい九島院を再  
 建できますよう是非お力添え  
 をお願いします。そして、こ  
 の大事業が滞りなく円成しま  
 すよう、今後とも絶大なるご  
 支援ご協力を切にお願いし、  
 ご報告とお礼を申し述べます



# 編集後記

▼巷にジングルベルの音楽がながれ、  
 気ぜわしくなってきました。息づく間  
 もなく、工事続きの一年でした。観音  
 さんの建立から随分たったような気が  
 します。

▼住職交代より2年半、檀信徒会館（  
 参集殿）という一大事業を来春に控え

境内が美しくなることは檀信徒の皆様であり、  
 御寺院の喜び、誰よりもまして御本尊様の喜びです。

気分一新、決意を新たに、新年にのぞ  
 む所存です。

▼本堂修復工事は中山工務店の社長さ  
 んが、信仰心厚く、採算を度外視して  
 丁寧な仕事をしてくれました。紙面を  
 かりて厚くお礼申し上げます。

▼養銭から、昨年同様『中国残留婦人  
 の帰国を実現する市民の会』に五千元  
 『NHK歳末助け合い』に五千元を募  
 金させて頂きました。

## 瓦と宝石

とうとう念願の本堂の屋根瓦が葺き替えられ  
 ました。昨年来より、雨が降る日は気分が落ち  
 込んで、「何とかしなければ・・・」と思うば  
 かりで、一日延ばしにしてきましたが、この度  
 機が熟し、大勢の方々のお力で葺き替えること  
 ができました。有り難いことです。

「宝石とならんよりは瓦となって全（まった）  
 かるべし」という言葉があります。

これは、人生の生き方を示す言葉ですが、誰  
 からもチャホヤされる宝石のような人間になる  
 より、人目に触れずとも自らの力を精一杯出し  
 切ってその使命を果たしているような、たとえ  
 ば屋根の瓦のようになりなさいという教えです。

屋根にあって仲間と手を結び、雨漏りを防ぎ  
 雪が積もっても大雨が降っても、ずり落ちること  
 が無い、砕けもしない、また一枚きりで他へ  
 移ったり世を渡ることもしない。屋根を守る  
 という連帯の中で使命を果たす。これが「瓦と  
 なって全かるべし」です。

私たちは大小の差はあれ、いつもあれこれと  
 不満を言います。世の中をそねみ、運を呪い、  
 人を悪く言ったり、自分を甘やかしたり、都合  
 が悪いことが起きれば逃げてしまったり・・・  
 なかなか屋根の瓦のようにまいりません。

葺き替えられた瓦の数、総数七千枚（鬼瓦を  
 除く）。皆さんの浄行によって完成した大きな  
 屋根は、「瓦となって  
 全かるべし」の教えを  
 いつも私たちに教え示  
 してくれることによ  
 う。

庭の観音さんの表情  
 もほっとしているよう  
 に思えるのは気のせい  
 でしょうか。どうも、  
 有り難うございました

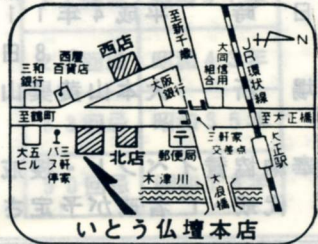


仏事のことならおまかせ下さい

### 井 藤 仏 壇 店

本店 大正区三軒家東4-2-19  
 ☎06-551-3072

店主は先代  
 弘忠和尚の  
 清風高校で  
 の教え子で  
 す。  
 ごひいきに！



いとう仏壇本店